

令和5年9月発行

世田谷水道ニュース

東京都水道局 世田谷営業所 (03-5433-0541)
〒154-8732 東京都世田谷区太子堂1-13-13



世田谷区周辺の災害時給水ステーション



和田堀給水所は工事中のため、
応急給水活動を停止しています。
(令和8年3月31日まで)



- 浄水場・給水所
- 応急給水槽 (1500m³)
- 小規模応急給水槽 (100m³)

災害時に皆様へ水を届ける重要な拠点です。 地図を参考に、ご自宅から近い拠点をご確認ください！！

- ★災害時給水ステーションにお越しの際は、水を入れる容器(ポリタンクやペットボトル)をお持ちください。
- ★「東京都水道局アプリ」では、災害時給水ステーションの場所や開設状況を把握できます。



アプリについて、
詳しくは水道局HPを
ご確認ください！！



このマークと黄色の
のぼり旗が目印！！



災害時給水ステーション

東京都水道局

各種お申込み・お問合せ等の連絡先

水道局お客さまセンター (日曜・祝日を除く 8時30分～20時00分)

0570-091-100 (ナビダイヤル)、
03-5326-1101 又は 042-548-5110

お客さまセンターに
ついてはこちら→



東京近代水道125年のあゆみ



東京の近代水道の歴史は、明治31年の淀橋浄水場通水をもって始まり、今年125周年を迎えます。ここでは、近代以前の歴史とともに、明治31年に始まる近代水道125年の歩みをご紹介します。



近代以前の水道

江戸入国後、徳川家康に調査を命じられた大久保藤五郎が小石川上水を、三代將軍徳川家光の時代には、多摩川から江戸に水を引くため、庄右衛門・静右衛門が玉川上水を整備しました。これらが今日の東京水道の遠い起源です。



玉川上水



江戸時代の木樋



玉川兄弟

【主な出来事】

- 1590年 小石川上水（後の神田上水）整備
- 1654年 玉川上水整備

近代水道の創設

悪化する水質の改善のため、鉄管で給水する近代水道の整備が進められ、明治31年12月には淀橋浄水場からの給水が始まりました。水道需要の急増を受け、近代水道創設直後から拡張工事に着手する一方、荒廃する水源林の管理や関東大震災からの復興など、様々な課題に取り組んできました。



淀橋浄水場



荒廃した水道震源林



震災時の応急給水

【主な出来事】

- 1898年 淀橋浄水場運転開始
- 1901年 水道水源林の管理開始
- 1913年 第一水道拡張事業開始
- 1924年 水道速成復興工事開始

東京水道の拡張

戦争による中断期間を挟み、戦前の計画に基づく施設整備が着々と進められました。戦後には悲願であった利根川水源の利用も実現し、今日の東京水道の基幹となる多くの施設が建設されたほか、多摩地区水道事業の都営一元化も始まるなど、東京水道は更なる拡張の時代を迎えました。



村山・山口貯水池



小河内ダム



在りし日の淀橋浄水場

【主な出来事】

- 1936年 第二水道拡張事業開始
- 1957年 小河内ダムしゅん工
- 1963年 利根川系水道拡張事業開始
- 1971年 多摩地区水道事業都営一元化開始

量から質への転換

需要の増加が落ち着く一方、原水水質悪化が問題視され、高度浄水処理の導入等による「質」の向上が大きなテーマとなりました。また阪神淡路大震災を受けた震災対策の強化など、「安全でおいしい水」の実現に向け、様々な取り組みを行ってきました。



小河内ダムと水源林



村山上下貯水池堤体強化



高度浄水施設完成式典

【主な出来事】

- 1989年 高度浄水施設建設開始
- 1998年 東京近代水道100周年
- 2012年 多摩地区水道事務委託完全解消
- 2014年 利根川水系全浄水場における高度浄水施設建設完了

持続可能な東京水道へ

明治31年の近代水道通水開始以来、東京の水道は最も重要な基幹ライフラインとして、都民生活と首都東京の都市活動を支えてきました。今後も計画的な施設整備や新技術を活用したサービスの向上等を通じて、「持続可能な東京水道」の実現に向けて取り組んでいきます。



耐震継手管への取替



村山上下貯水池堤体



国際水協会世界会議

【主な出来事】

- 2018年 IWA世界会議・展示会の東京開催
- 2020年 東京水道株式会社の設立
- 2023年 東京近代水道125周年